

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 生徒の「社会と調和し自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

布施北高校は生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現します。

- (1) 自己を高める力・・・確かな学力（読み・書き・計算・表現力）を育み、ねばり強さと未来に希望を持つ志を養います。
- (2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り、周囲と協力し合う力を養います。
- (3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力を養います。

## 2 中期的目標

## 1 学習活動の充実

- (1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- (2) エンパワメントスクールとして3年目の完成期に当たり、選択科目およびエンパワメントタイムの学習内容のさらなる充実と、新学習指導要領に向けた教育課程の検討、見直しを図る。  
\* 学校教育自己診断における生徒の授業満足度（平成30年度60.2%）を2020年度63%以上→2021年度63%以上を継続する。

## 2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学及び原級留置を防止する。  
\* 中途退学率（平成30年度5.1%）を2020年度5%以下→2021年度5%以下を継続する。
- (2) 生徒が安心して学校生活が送れるよう、保護者との連携・協力体制を強め、担任・学年団と生徒指導部が連帯して、計画的・組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 各中学校との連携を密にし、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、各分掌・学年と連携してケース会議を開くなど、積極的に生徒支援を行う。
- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 全教職員が同和教育をはじめとした人権教育の理念を学び、尊重して共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 多数の中国等帰国生徒や外国人生徒が在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。

## 3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 三年間を見通したキャリア教育（勤労観・職業観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ）を積極的に進める。
- (2) 学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さを理解し、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。  
\* 進路決定率（平成30年度83.2%）を2020年度に85%以上→2021年度85%以上を継続する。

## 4 エンパワメントスクールの完成期の教育活動の充実と積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールとして3年めの完成期における教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。  
\* 学校教育自己診断の生徒学校生活満足度（平成30年度63.1%）を2020年度に80%以上→2021年度80%以上を継続する。
- (2) エンパワメントスクールの1年次インターンシップや2・3年次デュアル実習においても参加生徒のニーズや進路目標に対応した実習先を開拓し地域との連携を深め、実習を通して社会で活躍する意欲や態度を育成する。  
\* デュアル実習の満足度（平成30年度83.9%）を2020年度85%以上→2021年度90%以上。  
\* 学校教育自己診断の生徒の将来の進路関係の項目肯定的評価（平成30年度76.3%）を2021年度80%以上にする。
- (3) デュアルシステムをはじめとした学校のさまざまな取組みや情報を保護者、中学校、地域、府民に向けて発信し、学校イメージの向上を図るとともに、改編後の学校の教育内容や学校の魅力等について積極的に情報発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答数は昨年度並み(491←487)</li> <li>・ 4点満点に換算した全体のポイント平均は、昨年度並みであった。(2.83←2.80)</li> <li>・ 評価の高い設問は、「21: 授業などでコンピュータやプロジェクトを活用している。」(3.32 P)「22: この学校にはデュアルシステムをはじめ、他の学校にない特色がある。」(3.27 P)で、昨年度と比べて評価が増加した設問は「19: 先生は、お互いに協力し合っている。」(+0.66)「25: 30分授業は苦手な分野の学び直しに役立っている。」(+0.63)であった。</li> <li>・ 評価が低い設問や昨年度と比べて評価が減少した設問は、「23: 渡日生（外国語を母語とする生徒）との交流や多文化理解の機会が多い。」(2.43 P) (-0.62) であった。</li> <li>・ 教員の様々な頑張りは、ある程度生徒には評価されている。その反面、日本語指導の必要な生徒の取り組みについては、生徒全体のものにはなっておらず、一部の限られた生徒の取り組みは不十分に終わっている。校内でイベントを開催したり、通信等を利用して情報発信するなどの工夫が必要である。</li> </ul> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答数は増加した(146←126)</li> <li>・ 4点満点に換算した全体のポイント平均は、下降した。(2.99←3.08)</li> <li>・ 評価の高い設問や昨年度と比べて評価が増加した設問は、「19: デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験になると思う。」(3.64 P) (+0.18)「20: 子どもがエンパワメントスクールに入塾してよかったと思う。」(3.60 P) (+0.24)、評価の低い設問や昨年度と比べて減少した設問は、「11: 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」(2.33 P) (-0.38) であった。</li> </ul>	<p>第1回(6/22)</p> <p>【テーマ】5年後・10年後を見通した布施北高校の方向性→エンパワメントスクールのビジョンづくりとその方策～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員はプロ意識を持って授業づくりをすすめてほしい。魅力ある授業は出席率の向上や子どもが学ぶきっかけにつながる。</li> <li>・ 生徒に自己を律する忍耐力や生きる力を身につけさせることが大切。枠にはめるのではないが、ルールを守った上で楽しさを見つけ、学校生活の充実を図れるようにする。</li> <li>・ 布施北高校ならではの特色（デュアル実習等）は、地域や中学生から見えやすく、布施北で何を学びたいかについて具体的なイメージを描きやすい。中学生がストーリーを描けることが大切。将来を見通して、布施北独自のエンパワメントスクールをつくり、今後も生徒数を確保していくことが大切である。</li> </ul> <p>第2回(11/15)</p> <p>【テーマ】教員の授業力・魅力ある学校・教員の資質向上のための体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業見学して、先生や生徒が一生懸命頑張る姿が大変良かったが、授業には冒険と夢が必要である。</li> <li>・ ICT活用が進んでいる。先生と生徒の年が近いため言葉のキャッチボールが行われていて楽しそうだった。</li> <li>・ デュアルなどで様々な人と関わる中で、多くの出会いや学びがある。デュアルシステムは先生の社会経験にも繋がっている。</li> <li>・ 将来の自分を想像して高校を選んでもらうために、布施北としての魅力をさらに押し出していくべき。</li> <li>・ 積み上げてきた資源を大切にしながら地域連携をさらに進めていく。</li> </ul>

本校の特色ある取り組みについては、肯定的な評価をいただいている保護者が多いが、授業参観や学校行事等、保護者自身の学校の参加が低いのは、従前から、家庭状況の厳しい家庭が多いのと、小中学校時代から学校に対していい印象を持たず非協力的な保護者が多いのが原因と考えられる。できるだけ担任を中心として学校と保護者との連携を深め、関係を構築することが必要である。

**【教職員】**

- 回答数は昨年度並み（61～67）。
- 4点満点に換算した全体のポイント平均は、上昇した。（2.88～2.72）
- 評価の高い設問は、「12：この学校では、生徒が望ましい勤務観・職業観を持つことができるよう、体系的なキャリア教育を行っている。」（3.34P）、「29：デュアルシステムなど、地域連携を教育活動に生かしている。」（3.43P）で、昨年度と比べて評価が増加した設問は、「19：学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。」（+0.66）、「20：学校運営に教職員の意見が反映されている。」（+0.57）、「21：教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。」（+0.57）であった。
- 評価の低い設問は、「5：指導内容について、他の教科と話し合う機会がよくある。」（2.31P）、であり、昨年度と比べて減少した設問は「14 学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。」（-0.38）であった。
- 教職員が教育活動や学校運営を理解しながら働ける環境であることに評価が高いことは、教職員の人間関係がよい結果だと判断ができる。しかし、指導内容や学校行事について、教職員同士が意見交換したり議論したりすることが不十分であると感じていることも事実である。経験が浅い教員が多いのと、忙しさのあまり時間が十分に取れないことも原因の一つと考えられる。今後校内研修を含め、学校として時間の確保をすることも必要である。

**第3回（2/8）**

【テーマ】今年度の学校教育自己診断や総合学科卒業生アンケートの結果を受けて次年度学校経営計画及び学校評価について今後のめざす方向性

- ・「Wワーク」になってからの布施北高校の印象は「面が見が良い学校」から、「学びが将来に繋がる学校」に変化している。
- ・外国にルーツのある生徒が多いことも特色の一つ。将来活躍する人材の育成にもさらに取り組んでほしい。
- ・「デュアル実習意見交換会」は成果があった。来以降は年2回程度に拡充してほしい。
- ・どんな生徒を育てるか、保護者の希望を教育にどう取り入れるか、地域とどのように連携していくか、熱のある教員をどう育成するか等々を、とても楽しみにしている。
- ・地域との連携は布施北高校の財産。地域との連携をすすめ、地域の資源を上手に活用してほしい。子どもにコミュニケーション能力、問題解決力、忍耐力をつけるため、一緒に頑張りたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備	(1) ア 授業中の「五大規律」を一致して指導し、「授業こそが生徒指導の場面」として落ち着いた授業環境を作る。 イ 1年生の国数英モジュール授業の習熟度別授業を通して分かる楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。 ウ ユニバーサルデザインの視点から生徒が集中し落ち着いて取り組める学習の取組みを進める。 エ ICT活用をさらに充実させる。	(1)(2) 昨年度比較 ・ 生徒学校教育自己診断における授業満足度肯定的評価 63%以上（H30年度 60.2%） ・ 生徒学校教育自己診断1年モジュール授業肯定的評価向上（H30年度 81.9%） ・ 生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 80%以上（H30年度 72.8%） ・ 教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」授業方法について検討する機会」4点中のポイントをアップ（H30年度 2.93P）	(1) ア 昨年度に引き続き一致した指導ができ、生徒への要求水準がアップしている。 イウエ 1年生の国数英モジュール授業の習熟度別授業を実施。授業の満足度も昨年度並みである。ICT活用の授業もさらに増加した。 ・ 生徒学校自己診断における授業満足度肯定的評価 59.3%（H30年度 60.2%）（△） ・ 生徒学校教育自己診断1年モジュール授業肯定的評価 77.6%（H30年度 81.9%）（△） ・ 生徒学校教育自己診断「ICT活用している」肯定的評価 87.6%（H30年度 72.8%）（◎）
	(2) 生徒が「わかった」「楽しい」と思う主体的な学びを成立させる教職員の授業力の向上	(2) ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型授業を増やす。 イ 授業公開週間を設定し、授業の工夫を教職員が互いに学び合い授業研究できる機会を持つ。 ウ 教科を中心としてテーマを定めた授業研究を行う。	(3) ・ 実習出席率 90%以上継続（H30年度 94.0%）	(2) ア エンパワメントタイムでは、参加体験型授業を昨年実施していない科目も実施した。 イウ 授業公開週間の回数、期間を増やし、教員間で授業研究、見学できる機会を増やした。 ・ 教職員学校教育自己診断「指導方法の工夫改善」授業方法について検討する機会」4点中のポイント 2.95（H30年度 2.93）（○）
2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり	(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導の充実	(1) ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識の醸成 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図り、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛ける。 ウ 随時迅速な中高連携と中高連絡会の開催や全教員による中学校訪問を実施する。 エ 子ども家庭センターなど外部機関との連携を進め生徒指導を充実させる。	(1) ・ 長期欠席者数をH30年度より減少（H30年度 74名） ・ 中途退学者率 5%継続（H30年度 5.1%） ・ 欠席延人数をH30年度より減少（H30年度延 7929名） ・ 遅刻延べ人数をH30年度より減少（H30年度 6789名）	(1) アイウエ 規範意識の醸成を行い、基本的な生活習慣の確立の取り組みが継続されている。管理職も加わり年間を通じて中学校訪問を行った。また、外部機関との連携も充実した。 ・ 長期欠席者数は昨年度並みの見込み。35人（△）（12/7現在） ・ 中途退学者数は減少の見込み。1.9%（○）（12/7現在） ・ 欠席延人数は減少する見込み。6001人（○）（12/7現在） ・ 遅刻延べ人数は減少する見込み。4926人（○）（12/7現在）
	(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実	(2) ア 生徒の状況把握に努めるとともに、困難な課題を抱える生徒への教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、新たな担当窓口を設置してスクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携を強化し、要配慮生徒のケース会議を開くなど、生徒支援を充実させる。	(2) ・ 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価をH30年度（63.2%）よりアップ ・ 支援体制の整備（昨年度立ち上げたES校長会・相談部会の活動継続）	(2) ア 教育相談委員会と学年主任との連携が充実し、ケース会議の回数が増加した。 ・ 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価 64.8%（H30年度 63.2%）（○） ・ 昨年度立ち上がったES相談部会の連携が継続的に行なわれている。（○）

## 府立布施北高等学校

	<p>(3) 生徒の居場所となる魅力ある学校づくり</p> <p>(4) 人権教育の推進</p>	<p>(3)</p> <p>ア 部活動や生徒会活動を活発にし、活動状況を校内モニターやホームページ（HP）を活用して校内外に発信する。</p> <p>(4)</p> <p>ア 生徒対象の人権学習を発達段階に応じ系統的・計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインド生徒指導、障がい理解等をテーマとした教職員研修を実施する。</p> <p>ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、ともに学ぶ教育を推進する。</p>	<p>(3)</p> <p>・ 生徒会活動・部活動の活性化と発信（学期ごとに校内モニターの内容更新）</p> <p>・ 部活動加入率をH30年度（34%）よりアップ</p> <p>(4)</p> <p>・ 教職員研修の充実（年間4回以上）</p>	<p>(3)</p> <p>ア 部活動に参加する生徒はやや減少。生徒会活動はやや活発化した。校内モニターの内容更新の回数は昨年より多い。</p> <p>・ 校内モニターの内容更新4回（○）（12/27現在）</p> <p>・ 部活動加入率32%（H30年度34%）（△）</p> <p>(4)</p> <p>アイ 人権学習は計画通り進めた。職員研修は全員対象3回（「LGBT」「外国人問題」「生徒保護者対応」）以外に、初任者、転任者対象に3回実施した。（○）</p> <p>ウ 外国ルーツを持つ生徒対応は、新分掌人権保健部を中心にサポートできた。（○）</p>
3 キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 進路指導の取組み</p> <p>(3) 地域等との連携強化</p> <p>(4) 働き方改革</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年時よりキャリア教育の充実のために職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。</p> <p>(2) (3) (4)</p> <p>ア 進路決定及び定着のための取組み継続</p> <p>イ デュアル実習連携企業・施設の拡大</p> <p>ウ 中小企業家同友会との連携</p> <p>エ デュアルシステムでの連携企業・施設等の地域交流を促進する。</p> <p>オ キャリア教育コーディネータを活用した取組み継続</p>	<p>(1) (2) (3)</p> <p>・ 進路未定率15%以下（H30年度16.8%）</p> <p>・ 学校斡旋就職内定率90%以上継続</p> <p>・ 生徒のニーズや進路目標に対応した連携協力事業所の拡大と確保</p> <p>(4)</p> <p>・ キャリア教育コーディネータの活動日数を増加させ、デュアル実習等の負担軽減</p>	<p>(1)</p> <p>ア エンパワメント生徒が3学年そろい、3年間のキャリア教育のプログラムが確立し、外部と連携した進路指導を実践した。生徒はインターンシップはじめ、キャリア教育に関する行事には積極的に参加した。</p> <p>・ 進路未定率17.1%（△）（H30年度16.8%）</p> <p>・ 学校斡旋就職内定率86.1%（△）</p> <p>(2) (3) (4)</p> <p>ア 3年生進路決定の取り組みは計画通り行うことができた。</p> <p>イ 渡日生や配慮生徒の連携協力事業所や、特殊分野の連携協力事業所開拓も積極的に行ったが、受け入れの成果は低い。（△）</p> <p>ウエ 特に中河内中小企業家同友会や中小企業家連会の会合にも参加すると同時に、校内でデュアル意見交換会を開催した。（○）</p> <p>オ 生徒の進路指導のサポートでCGの活用日数は例年通り行い、教員のデュアル実習等の負担軽減には効果があった。（○）</p>
4 キャリア教育・進路指導の充実 報発信	<p>(1) 完成期における教育活動を充実させる</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア 3学年各学年のエンパワメントタイムのスムーズな運営</p> <p>イ エンパワメントスクール完成期の3年生の教育活動を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。</p> <p>イ HPの発信内容充実</p> <p>ウ PTA・同窓会の通信の充実</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <p>・ 生徒学校教育自己診断における学校生活満足度の維持向上</p> <p>・ エンパワメントタイムの満足度60%以上</p> <p>H30年度（授業満足度60.2%）（デュアル実習満足度83.9%）</p> <p>(2)</p> <p>・ 通学想定区域（旧5学区中北部周辺、大東市、平野区北部等）中学校全校訪問継続</p> <p>・ HPにおける情報発信の工夫</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 総合学科部中心に、試行錯誤しながら、3年間のエンパワメントタイムの確立ができた。特別非常勤講師の活用も積極的に行った。</p> <p>・ 生徒卒業時アンケートのエンパワメントタイム満足度71.0%（生徒学校教育自己診断における授業満足度H30年度60.2%）（◎）</p> <p>・ デュアル実習満足度83.7%（H30年度83.9%）（○）</p> <p>(2)</p> <p>アイウ エンパワメントスクールの教育内容発信のため、学校説明会、中学校訪問、HPの充実等で情報発信ができた。</p> <p>・ 学校説明会参加者773人（H30年度695人）（◎）</p> <p>・ 中学校訪問延べ件数219（H30年度294）（△）</p> <p>・ HPブログ発信回数78回（◎）（1/17現在）（H30年度64回）</p>